

第52回社会福祉セミナー

地域における支援の限界と可能性

— 未来型社会福祉を展望する —

主催 公益財団法人鉄道弘済会 後援 社会福祉法人全国社会福祉協議会

超高齢・少子社会の進展、価値観やライフスタイルの多様化など、わが国における人びとの暮らしを取り巻く状況は大きく変貌した。そこに浮上する問題は、あまりにも複雑で、しかも、政治経済状況の閉塞感は、未来を志向して何かを論じる力までも削いでいる感が否めない。すべてが「他人ごと」であり、何かに向かって結末する必要を共感できる生活感覚は、すでに昔日のものになったようでもある。

このような状況を見据えて改正された社会福祉法の目的には「地域における社会福祉（地域福祉）の推進」が明文化された。現在、多様な生活課題の解消にあたり、地域に軸足を置いて取り組むことが期待される中で、主体となる人びとが地域社会の問題を身近なものとして受け止め、かかわることが不可欠となった。しかし、人びとのコミュニティへの帰属意識や関心は薄らぎ、人的・物的な社会資源も限られている。いかに地域社会の実情に応じた包括的な取り組みを、人びとの目線に沿って進めていくことができるだろうか。

そこで、本セミナーでは、地域が人びとに求めている役割を検証し、その限界を明らかにしつつ、地域における新たな社会福祉支援のあり方を考えてみたい。そして、一人ひとりの安寧を目指すための視座を構想するにあたり、人びとによって推進される草の根的な取り組みから地域における未来型社会福祉の可能性を展望してみたい。

- 期 日 2015年7月24日(金)
- 会 場 有楽町朝日ホール(東京都千代田区、有楽町マリオン11階)
- 定 員 600名(定員になり次第締切) ●受講料 4,000円(学生割引あり)

申込方法

同封の申込書にご記入のうえ、郵送またはFAXにてお申し込みください。ホームページからのお申し込みも承っております。<http://www.kousaikai.or.jp/>
お申し込みとともに、受講料をご送金ください。

■受講料の送金方法

- ①銀行振込 みずほ銀行 本店
(普通) 2155069
口座名 公益財団法人鉄道弘済会
 - ②郵便振替 00140-8-143594
口座名 公益財団法人鉄道弘済会
振替用紙の通信欄に住所・氏名をご記入ください。
 - ③現金書留 同封の申込書に必要事項をご記入のうえ、お送りください。
- *受講証および領収証の発送は、**7月3日(金)ごろ**を予定しております。
*納入後の受講料は返却いたしかねますので、ご了承ください。
*学生の方は、当日受付にて学生証をご提示ください。

- 事情により講師等が変更となる場合があります。
- ご昼食、ご宿泊等の手配は行っておりません。
- 個人情報について 受講お申し込みの際してお預かりする個人情報は、受講証の発送、受講料の請求とご入金の確認、次回以降開催のご案内のみに使用いたします。

会場案内図

有楽町朝日ホール (有楽町マリオン11階)



交通

- JR(山手線・京浜東北線)有楽町駅、中央口または銀座口
 - 東京メトロ(丸ノ内線・銀座線・日比谷線)銀座駅、C4出口
 - 東京メトロ(有楽町線)有楽町駅、D7出口
- *いずれも徒歩2分。

ホール入り口

有楽町マリオン映画館チケット売り場横のエレベーター(★)で11階までお越しください。

9:30 10:00 10:10

11:00 11:10

12:30

7月24日(金)
午前

受付	開会	基調講演	休憩	シンポジウム (発題)
----	----	------	----	----------------

(敬称略)

基調講演

10:10~11:00

地域福祉推進の現状と課題

—知らんぷり(無関心)社会からの脱却—

同志社大学教授 ^{うえの や} 上野谷 ^{かよこ} 加代子

シンポジウム

11:10~14:45

地域における支援の限界と可能性 —安全・安心な暮らしを求めて—

地域福祉の推進主体として住民の積極的参加が期待されている。しかし、従来の地域の支え合いや社会的つながりは弱体化し、無関心社会とも呼ばれる現状がある。加えて、一人ひとりのニーズに対応する社会資源の不足もあり、地域における支援は困難なものとなっている。このような地域の限界とも言える状況の中、誰が主体となって、どのように安心・安全な暮らしを実現していけばよいのだろうか。

そこで、本シンポジウムでは、これからの地域社会に求められる「無援」状態にならない支え合いの仕組みや具体的な支援の構築について参加者とともに考えていく機会としたい。

社会福祉法人山梨立正光生園理事長・山梨県立大学特任教授 ^{か が 美} 加賀美 ^{ゆう} 尤 ^{しん} 祥子
 横浜市もえぎ野地域ケアプラザ副館長 ^{たか ね} 高根澤 ^{よし} 良子
 大山団地自治会会長 ^さ 佐藤 ^{よし} 藤子
 コーディネーター：ルーテル学院大学大学院教授 ^わ 和田 ^{あき} 敏明

公益財団法人鉄道弘済会は各種の社会福祉事業を運営しております。

(2015年4月1日現在)

機関・施設別	箇所数
義肢装具サポートセンター	1
知的障害児・者施設	7
保育所	24
児童養護施設	1
老人福祉施設	6
福祉所	17
福祉資料室	1
福祉相談室	2
計	59

公益財団法人鉄道弘済会は公益事業の運営を本旨とする財団法人として、1932年(昭和7年)に設立されました。

本法人の行う公益事業には、身体障害者福祉、児童福祉、知的障害児・者福祉、老人福祉などがあります。民間におけるわが国唯一の切断障害者の医学的リハビリテーション施設や全国に24か所の認可保育所、総合福祉センター「弘済学園」などの福祉施設の運営をはじめとして、社会福祉に関する理論と実践をつなぐ専門誌『社会福祉研究』の発行、視覚障害者用録音図書製作奉仕者に対する顕彰事業等を行っております。

民間公益事業団体として、その時代の要請に応え、先駆的な役割を果たすとともに、ニーズの変化にも対応し、事業内容の充実を努めてまいりました。これらの公益事業に要する費用の不足分は、資産を有効活用した賃貸事業などの収益事業の益金等をもって充当しております。

12:30 13:30

14:45 15:00

18:00

7月24日(金)
午後

昼 食	シンポジウム (質疑応答・まとめ)	休 憩	選択講座①
			選択講座②
			選択講座③

選択講座

15:00~18:00

選択講座①

地域福祉推進から見えてくる課題

—住民の参加を促し住みよい「まち」をつくる—

「地域における社会福祉（地域福祉）の推進」は社会福祉法の目的に明文化され、多様化する生活課題に対し、地域で解決に向けて取り組むことが期待されている。その実現には、主体となる人びとが地域社会に広がる問題を身近なものとして受け止め、かかわることが不可欠となる。しかし、彼らのコミュニティへの帰属意識や関心は希薄化しており、参加促進に向けた意識改革が求められている。

そこで、本講座では、地域福祉を推進するうえで見えてくる課題を通して、新たな住民参加・参画を進める手法の必要性について検討してみたい。そして、行政と関係機関が連携し、住みよい「まち」をつくるための方略について参加者とともに考えていく機会としたい。

東京都民生児童委員連合会副会長・豊島区民生委員児童委員協議会会長

寺 田 晃 弘
市立四日市病院 地域連携・医療相談センター「サルビア」副所長

吉 川 晴 子
宮城県社会福祉協議会復興支援福祉アドバイザー

本 間 照 雄
コーディネーター：日本福祉大学教授

原 田 正 樹

選択講座②

地域における新たな社会資源 —〈活用・調整・開発〉に向けた連携—

人びとが抱える生活課題は複雑多様化し、既存の制度では十分に対応しきれていない現状がある。地域に存在するニーズに対し、社会資源の情報の共有やネットワークの構築を進め、地域住民や行政にも働きかけながら、不足している社会資源を新たに作り出す必要がある。これは、複数の福祉課題を抱える人びとに対して、ひとつの枠組みで支えることに限界が生じ、地域がもつ既存の社会資源を組み合わせた新たなしくみづくりが求められているのではないだろうか。

そこで本講座では、社会資源の活用・調整・開発における課題を検討したい。さらに、一人ひとりの安寧の生活に向けて関係機関との連携を推進する方略について参加者とともに考えていく機会としたい。

NPO法人地域の寄り合い所また明日 また明日デイホーム管理者

NPO法人東京フレンズ理事長・日本社会事業大学非常勤講師

NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク理事長

コーディネーター：立教大学教授

森 田 和 道
西 隈 亜 紀
栗 林 知 絵
平 野 方 紹

選択講座③

障害者の地域生活移行推進の現状と課題

—共に生きる社会への可能性—

障害者福祉の領域では、住まいの場・生活の場を入所施設や病院から地域に移行することが重要な課題となっている。しかし、地域に受け皿がない、生活の定着が困難などの現状があり、障害者の地域生活を支援していく新たな方略が求められている。

そこで本講座では、地域生活移行推進の現状を把握し、各社会福祉施設の実践から、それぞれが取り組む支援の方向性を読み解きながら、共に生きる社会の構築に向けて参加者とともに考えていく機会としたい。

公益財団法人鉄道弘済会 総合福祉センター「弘済学園」園長

公益社団法人やどかりの里常務理事・見沼区障害者生活支援センターやどかり代表

NPO法人渋谷川広域障害保健福祉事業者協議会理事長

コーディネーター：明治学院大学教授

高 橋 潔
三 石 美
真 下 宗 司
茨 木 尚 子

【基調講演】

上野谷加代子 (うえのや かよこ)
 (同志社大学大学院社会学研究科教授・日本福祉大学客員教授)
 大阪市立大学大学院(社会福祉学専攻)修了。研究関心は地域を基盤としたソーシャルワークの展開。日本地域福祉学会会長。モットーは「清く、正しく、美しく、そして朗らかに」。

【シンポジウム】

和田敏明 (わだ としあき)
 (ルーテル学院大学大学院 総合人間学研究科 社会福祉学専攻主任教授)
 全国社会福祉協議会で事務局長を務め、地域福祉や福祉への住民参加の実践推進と研究を行ってきた。現在、地域福祉型福祉サービスの推進・研究に強い関心を持ち、全国の多様な地域福祉実践とかかわりをもって、研究を行っている。

加賀美尤祥 (かがみ ゆうしょう)
 (社会福祉法人山梨立正光生園理事長・山梨県立大学人間福祉学部特任教授)
 早稲田大学第一文学部卒業。児童養護施設山梨立正光生園施設長、日本社会事業大学社会福祉学部教授、同専門職大学院教授、山梨県立大学人間福祉学部教授などを経て、現職。

高根澤恵子 (たかねざわ けいこ)
 (横浜市社会福祉協議会老人福祉センターユートピア青葉、横浜市もえぎ野地域ケアプラザ副館長)
 看護師。臨床経験後、1994年横浜市社会福祉協議会へ入職。通所介護、介護支援専門員、在宅介護支援センター、地域包括支援センター等の業務に従事。現在、地域ケアプラザおよび老人福祉センター併設館の管理者。

佐藤良子 (さとう よしこ)
 (大山団地自治会会長)
 1942年宮城県生まれ。1989年有限会社エスク設立、取締役専務に就任。1999年から東京都立川市の大山団地で、自治会会長として活躍。加入率100%、孤独死ゼロも実現。自治会葬を手がけるなど、行動派の運営で、日本一の自治会と称される大山自治会を取りまとめている。

【選択講座①】

原田正樹 (はらだ まさき)
 (日本福祉大学社会福祉学部教授)
 日本社会事業大学大学院修了。博士(社会福祉学)。茅野市、氷見市、伊賀市、半田市など各地の地域福祉実践に長くかかわる。専攻は地域福祉、福祉教育。著書は『地域福祉の基盤づくり』(中央法規)、『地域福祉援助をつかむ』(有斐閣)など多数。日本学術会議連携会員。

吉川晴子 (よしかわ せいこ)
 (市立四日市病院 地域連携・医療相談センター「サルビア」副所長・医療ソーシャルワーカー)
 関西学院大学社会学部卒業。1980年市立四日市病院に医療ソーシャルワーカーとして入職。2009年4月より現職。医療の機能分化が進む中で、患者相談の充実と安心の地域医療福祉連携の推進に努めている。

寺田晃弘 (てらだ あきひろ)
 (東京都民生児童委員連合会副会長・豊島区民生委員児童委員協議会会長)
 地元東京都豊島区において身近な相談相手として地域住民に寄り添う一方、全国・東京都の規模の民生委員・児童委員の組織においても副会長等の役割を担い、地域福祉のさらなる増進に尽力している。

本間照雄 (ほんま てるお)
 (宮城県社会福祉協議会復興支援福祉アドバイザー)
 1950年宮城県生まれ。1970年に宮城県に入庁し、在職中に東北大学大学院文学研究科修了。博士(文学)。震災直後、宮城県を定年退職。その後、3年間にわたり南三陸町保健福祉課福祉アドバイザーとして復興を支える住民主体の街づくりに携わる。2014年より現職。

【選択講座②】

平野方紹 (ひらの まさあき)
 (立教大学コミュニティ福祉学部教授)
 日本社会事業大学卒業、1980年埼玉県で福祉行政に従事し、1999年厚生省社会福祉専門官となる。埼玉県に帰任後、2003年日本社会事業大学助教授、2012年から立教大学准教授、2013年現職となる。

森田和道 (もりた かずみち)
 (NPO法人地域の寄り合い所また明日 また明日デイホーム管理者)
 2006年に妻と現在の法人を設立。「NPO法人地域の寄り合い所また明日」は、地域開放スペース・通所介護・保育園の3つの事業所を1つの空間の中で運営している。

西隈亜紀 (にしくま あき)
 (NPO法人東京フレンズ理事長・日本社会事業大学非常勤講師)
 日本社会事業大学大学院社会福祉学研究科博士前期課程修了。毎日新聞記者だったが精神保健福祉に関心を抱き、2001年、精神保健福祉士として精神科病院に転職。2013年、心のケアを必要とする若者のためのグループホームを設立、現在に至る。

栗林知絵子 (くりばやし ちえこ)
 (NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク理事長)
 東京都豊島区在住。6人家族で大学生、高校生の男児2人の母。2004年より池袋本町プレーパークの運営に携わる。自他共に認める「おせっかいおばさん」で地域のおせっかいさんを繋げる「NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク」理事長。

【選択講座③】

茨木尚子 (いばらき なおこ)
 (明治学院大学社会学部教授)
 東京都特別区福祉職として障害者支援の経験を経て、教育研究活動に従事。2006年より現職。障害当事者の参画による障害者施策のあり方について実践的に研究活動をしている。元内閣府障害者制度改革推進会議総合福祉部会副副会長。

高橋 潔 (たかはし きよし)
 (公益財団法人鉄道弘済会 総合福祉センター「弘済学園」園長)
 1956年東京都生まれ。1981年筑波大学大学院修士課程修了(教育学修士)。同年弘済学園に入職。2012年より現職。臨床心理士。強度行動障害支援者養成研修(国研修)研究検討委員などを務める。

三石麻友美 (みついし まゆみ)
 (公益社団法人やどかりの里常務理事・見沼区障害者生活支援センターやどかり代表)
 愛知県生まれ。大学卒業後、公益社団法人やどかりの里に入職。共同ホームで精神障害当事者とともに暮らしながら、長期入院者への退院後の地域生活支援、グループホームなどの資源開拓等に携わり、障害のある人やその家族への相談支援活動に従事している。

眞下宗司 (ましも そうじ)
 (NPO法人渋谷広域障害保健福祉事業者協議会理事長)
 1980年社会福祉法人誠光会身体障害者療護施設誠光荘入職、2000年同施設長に就任。2006年NPO法人渋谷広域障害保健福祉事業者協議会を設立し、理事長に就任。その他に、全国身体障害者施設協議会副会長等歴任。

お申し込み・お問い合わせ先

公益財団法人鉄道弘済会 社会福祉第一部「社会福祉セミナー」係
 〒102-0083 東京都千代田区麹町5-1 TEL 03-5276-0325 FAX 03-5276-3606
 E-mail fukushikenkyuu@kousaikai.or.jp URL http://www.kousaikai.or.jp/